2023年度　自己評価

世田谷幼稚園

1　本園の教育目標

世田谷幼稚園では「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい」テサロニケの信徒への手紙Ⅰ　5章16節～18節　この聖書の言葉を教育理念としています。

〇一人ひとりの個性と、のびのびとした心の豊かさを大切にします。

〇キリスト教の精神にもとづき、愛の心・感謝する心を育てます。

〇自然や動植物のふれ合いの中でやさしい心を育てたり、散歩や園外保育に出かけ探索して四季の変化や美しいものに感動します。

〇遊び（自由活動）を通して子どもの自発性・創造力を育てます。

2　本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

園の教育理念・教育方針のもと、その教育目標にそった評価項目に従って、自己点検、自己評価を実施することにより、教師自ら客観的に自園を見る目を養う。新型コロナウイルスの感染対策を強化させて、施設の改善・教育内容の改善に主体的に取り組んでいく。

3　評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	取組状況
幼稚園の教育要領の精神を踏まえ、園の教育理念・教育方針にしたがい編成している	A	新幼稚園教育要領や園の教育方針の内容を教職員で確認し、行事や日々の保育に添っているかを話し合う。
キリスト教保育のねらいや目指すものを常に問い、カリキュラムや週案を作成する	B	キリスト教保育指針を読んで参考にしながら『幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿』を取り入れ、カリキュラム・週案を作る。日々の保育の振り返りを大切にする。
子どもをよく観察して、子どもの実態を把握し課題を考えるとともに、一人ひとりの良さを認め評価する	A	日々の記録を参考にして一人ひとりの子どもの実態を把握し、教職員全体で課題と子どもの良さについて話し合う。教師は客観的に子どもを見る目を養うよう努める。

行事や学期ごとに、各クラスの成果と反省点を報告する。	A	学期や週の目標をクラスごとに定め、達成状況を報告し合う。また反省点からどのように改善していくかを話し合う。
遊びを通して工夫したり協力したりする姿が見られる。	B	子どもたちが工夫して遊んでいるか、友だちと協力して遊べているか、また遊びこめているかを考えて環境設定をしたり、よりよい子どもとの関わり方を考える。
規則正しい生活習慣の定着に向けての指導を行う	A	幼稚園で身につけてほしい生活習慣を子どもたちと考え、その援助・声かけをする。
教育の質の向上のために、世私幼・都私幼・キ保連などの研修に積極的に参加して、職員に資料提供をする。	C	研修会には積極的に参加し、学んだことは教職員間において提供し必ず共有する。
子どもの様子をみながら一人ひとりの子どもに合った声かけをして、言葉を豊富に与え、表現力を伸ばす。	A	教師が正しい言葉を使い見本となる。また、一人ひとりの子どもの課題を考えながらその子どもにふさわしい声かけをして、より多くのコミュニケーションに努める。
園だよりやクラスだよりを通して幼稚園の情報や教師の願いを発信していく	A	園の教育方針や取り組み、また、キリスト教保育の月主題や月のねがいを記載し、保育の内容について情報発信する。
評価項目を意識して、目標・実行・評価・改善のサイクルを確立する。	A	PDCA サイクルを念頭におき、さらに充実した教育になるように努める。

4　学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
B	それぞれの教師が日々、一人ひとりの子どもたちの姿を大切にしながら援助や声かけをして幼稚園教育に取り組んでいた。特に毎日のふりかえり、報告、連絡、相談などの報連相を大切に考え、園長と共に子どもの様子や保育の状況を常に共用していた。今後も自己評価を行いながらよりよい保育、教育を目指していきたい。

◎「３．４」の評価結果の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取組が不十分である

5　今後取り組むべき課題

課題	取り組み方法
カリキュラムや週案の作成	キリスト教保育の月主題などをねらいとしながら、『幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿』もまんべんなく取り入れて日々の保育を組み立ていた。さらに文字や数量、自然との関わりを意識してこどもの興味を引く保育を考えたい。
子どもとの関わり	子どもたちが遊びこめているか、子ども同士の関わりができているかをよく観察するのはもちろん、均等に関わることを常に意識する。
世私幼・都私幼・キ保連などの研修に積極的に参加する	今年度は園行事とのタイミングでたくさん研修に参加することができなかったので、来年度はもう少し研修に参加できるようにしたい。